



世帯の年齢によって支出内容はさまざまです

年代ごとにライフスタイルは変化

家計支出の内容は世帯主の年齢によって異なることがあります。ここでは、総務省の統計（平成 29 年 8 月 15 日公表データ「家計簿からみたファミリーライフ」より）をもとに、世帯主の年齢階級別に暮らしの特徴を見てみましょう。

世帯主が 30 歳代の世帯では、子供が誕生し、幼児のいる割合が高く、幼稚園や保育所の費用のほか子供服など、幼児関連費が他の年代に比べて最も多くなっています。内訳をみると、幼児教育費用・保育費用の支出が最も高くなっています。

世帯主が 40 歳代および 50 歳代の世帯は、子供が成長し、授業料、学習参考書代、仕送り金、塾の費用などの教育経費

費の支出が他の年代に比べ、最も多くなっています。

世帯主が 40 歳代の世帯では、子供が中学校や高校に在学している世帯の割合が高いため、学習塾や家庭教師への月謝などが含まれる補習教育のほか、

学校給食や文房具などを含む「その他の教育関係費」の支出が他の年代に比べ多くなっています。

世帯主が 50 歳代の世帯では、子供が親元を離れ、大学に進学する世帯の割合が高いため、子供への仕送り金の支出は、40 歳代の世帯の約 3 倍になっています。

フィットネスクラブなどのスポーツ施設使用料の支出金額についてみると、60 歳代の世帯の支出が最も多く、最も少ない 30 歳未満の世帯の約 9 倍になっています。



単身世帯について、男女の年齢階級別に食費の内訳をみると、35 歳未満の男性は外食の支出が最も多くなっています。一方、60 歳以上の女性は野菜や魚介類などの「素材となる食料」の支出が最も多くなっています。単身世帯で男女年齢階級別にペット関連費についてみると、35～59 歳の女性の支出が最も多くなっています。

保険についてのお問合せやご不明な点がございましたら、いつでもお気軽にご相談ください。